

甲南大学大学院フロンティアサイエンス研究科生命化学専攻（修士課程）の  
収容定員変更にかかる学則変更の趣旨等を記載した書類の目次

- ア. 学則変更（収容定員変更）の内容
- イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性
- ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

**甲南大学フロンティアサイエンス研究科の  
収容定員変更にかかる学則の変更の趣旨等を記載した書類**

**ア. 学則変更（収容定員変更）の内容**

甲南大学フロンティアサイエンス研究科生命科学専攻は、下表のとおり、令和3年度より修士課程入学定員 10 名を 15 名に変更し、5 名増員する。したがって、この入学定員の変更により甲南大学大学院修士課程の収容定員は以下の通りとなる。

現 行 令和2年度（2020年度）学則			
研究科	専攻	修士課程	
		入学定員	収容定員
フロンティアサイエンス研究科	生命化学専攻	10	20
	計	10	20
計		10	20
大学院合計		91	182



変更案 令和3年度（2021年度）大学院学則			
研究科	専攻	修士課程	
		入学定員	収容定員
フロンティアサイエンス研究科	生命化学専攻	15	30
	計	15	30
計		15	30
大学院合計		96	192

**イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性**

甲南大学大学院フロンティアサイエンス研究科生命化学専攻（以下、FIRST 研究科）は平成 21 年 4 月に、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー及びそれらの融合領域であるナノバイオテクノロジーを主たる教育・研究の学問領域とする修士課程入学定員 5 名（収容定員 10 名）、博士後期課程入学定員 1 名（収容定員 3 名）の研究科として設立された。平成 27 年には、FIRST 研究科の母体と

なるフロンティアサイエンス学部が平成 24 年度に完成年度を迎えたことに伴い、修士課程の入学定員を 10 名（収容定員 20 名）に変更した。

FIRST 研究科が教育・研究の対象とする学問領域は、平成 19 年版科学技術白書において戦略的重点化の対象として挙げられた 8 つの分野を広くカバーする領域であり、同分野に習熟した人材の供給には、現在でも大変強い社会的要請がある。

また、FIRST 研究科は、専門分野の異なる複数の教員が一人の学生の指導にあたるポリバレンタ体制などの教育方法を特徴としている。この特徴から、即戦力指向が強まっている社会情勢において、融合分野における知識を学び、実践的経験を積むことができる「融合領域研究の実践的遂行を通じて学ぶ研究科」であるといえる。

FIRST 研究科は、設立以来、上記の教育理念に共感した多くの入学志願者を集め、融合領域における実践的研究を学んだ修了生を社会に送り出してきた。このような大学院教育を目の当たりにしているフロンティアサイエンス学部では、その大学院進学率が、平成 25～令和 2 年度入試において 40～60%で推移しており、8 年間の平均では 46.8%（大学院進学者 126 名／卒業人数 269 名）となっている。このような進学率は全国的に見ても私立大学理系学部としては高い値である。

一方、FIRST 研究科の教育内容・教育方法、ひいては人材供給に対する社会的要請は今後ますます高まることが想定される。すなわち、平成 30 年版科学技術白書において科学技術イノベーションという用語が用いられ、また、中央教育審議会の「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」においては予測不可能な時代を生きる人材像という表現が使われているように、普遍的な基礎知識を有しながらも、異分野のものを柔軟に融合させる資質をもつ人材が求められている。

FIRST 研究科の母体となるフロンティアサイエンス学部では、平成 21 年の設立時より、このような時代の変化に合わせて社会で活躍できる人材の育成を目指し、文部科学省に提出した学部設置の趣旨において 6 年一貫教育をうたっている。すなわち、「学部教育の早い段階で専門分野への興味・関心を大きく育て、講義だけでなく実験・演習も通じて、まず一つの柱について知識、調査、実験、考察、発表というプロセスを体験し、その後、3 年次から大学院において、そのプロセスを経て身につけた体系的な学び方を生かして、主専攻の分野を深く学

びつつ、他分野との融合による応用発展について学び実践する」教育を行っている。

したがって、この6年一貫教育における大学院の位置付けは、より高度な専門分野の研究を行うだけでなく、より広く社会で求められる力を身につける役割を担うものということができ、融合分野において活躍できる、そして、融合を自らの力で起こしうる即戦力人材を求める近年の社会的要請の高まりに合致している。

また、社会のニーズにあった人材を育てることと同時に、融合分野を教育の題材とすることは、自ずと関連する数多の応用分野を潜在的教育分野として内包するため、ますます多様化する学生の学びのニーズへの柔軟な対応を可能にすることにつながる。すなわち、フロンティアサイエンス学部から FIRST 研究科までを通じて、徹底して「学生一人ひとりに向き合い丁寧に指導する」ことにより、学修者本位の教育を実現することができる。

このたびの学則変更は、このような6年一貫教育の理念に基づき、フロンティアサイエンス学部入学定員が35名から45名へ変更となった平成29年度入学者が卒業年度を迎えることを機に、令和3年度入試から FIRST 研究科修士課程の入学定員を10名から15名に変更するものである。なお、学生確保の見通しについては、事前希望調査によりフロンティアサイエンス学部4年生の半数以上が他大学大学院も含めて大学院進学を希望していることを把握している。

入学定員増に際しては、前述のような FIRST 研究科の特徴を損なうことなく、さらにその潜在的教育力を発展させて、社会のニーズにより的確に応えられるよう、学部教育と足並みを揃えながら人物教育と専門教育を行っていく計画である。

#### ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

FIRST 研究科の教育課程、教育方法及び履修指導方法、教員組織についてはいずれも変更はない。また、FIRST 研究科は独立した科目体系をとっているため、収容定員増による他学部、他研究科への影響はない。

なお、FIRST 研究科修士課程の収容定員を30名に増員しても、ST比は2.0であり、従来より特徴とする少人数体制に基づいて教育の質を十分に担保できるものと考えている。

以上